

前立腺腫瘍における感受性遺伝子解析に関する研究

1. 研究の対象

2000年4月から2025年4月31日まで当院で前立腺癌診療を受けられた方
および前立腺癌の疑いで前立腺生検を受けられた方
千葉大学クリニカル・バイオバンク事業への試料の提供と将来の試料解析研究での利用について同意が得られた方
採血検体、尿検体並びに生検、手術組織検体、病理解剖標本

2. 研究目的・方法

この研究は、前立腺腫瘍の病気の成り立ちを、遺伝子の面から明らかにしようとするものです。前立腺腫瘍には、遺伝性があることが知られていますが、多くの遺伝子が関係しており、さらに生活習慣や生活環境など遺伝に関係しない要素が影響を及ぼしています。したがって、その遺伝性を決めている遺伝子を明らかにするためには、多くの方にご協力をいただいて、前立腺腫瘍の方とそうでない方の間で、いくつもの遺伝子について比較する必要があります。前立腺腫瘍に関わる遺伝子が明らかになれば、ある人が前立腺腫瘍になりやすいかどうかということや、どういう仕組みで前立腺腫瘍が発症するのかということを明らかにできることが期待できます。さらに、これにより前立腺腫瘍の発症を予防したり、最適な治療法を選んだり、新しい治療法を開発したりといったことに発展してゆくことが期待されます。

通常の外来検査の採血と同様に10ml採血、採尿、並びに、前立腺生検時、追加にて生検させていただきます。手術や病理解剖の際に得られた前立腺組織を一部取り出すこともあります。得られた血液や組織検体は千葉大学バイオバンクに一括し保存されます。その血液や組織からDNA、RNA、蛋白を取り出して、前立腺腫瘍に関係のありそうな遺伝子の遺伝子多型(一般的に認められる遺伝配列のバリエーション。個人の体質を決めていると考えられる情報です。)について、千葉大学の泌尿器科学及び分子腫瘍学の研究室、東京医科大学医学総合研究所分子細胞治療研究部門、並びに共同研究機関であるかずさDNA研究所にて解析させていただきます。また、cell free DNA(採血中に存在するDNA)について、近畿大学医学部ゲノム生物学教室において解析させていただきます。また、尿検体につきましては、千葉大学泌尿器科学の教室の厳重に管理された冷凍庫にて保管いたします。

研究の期間は2020年4月から2025年4月31日となります。2020年4月以前に採取させていただいた保存検体も適宜利用させていただきます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料:血液、尿、前立腺生検・手術・病理解剖で摘出した前立腺組織等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関に提供する場合には、「個人情報管理者」が匿名化した試料・情報を提供します。あなたとこの符号を結びつける対応表は、「個人情報管理者」が厳重に管理し、その後の診療情報が必要な際には個人情報管理者が一時的にこの対応表を用いて診療情報を更新し、再び匿名化します。試料は匿名化された状態で郵送等により提供され、情報は匿名化された状態で記録媒体、郵送、電子配信等により提供されます。

5. 研究組織

千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学 市川智彦
千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学 金田篤志
東京医科大学医学総合研究所分子細胞治療研究部門 落谷孝広
かずさDNA 研究所 小原收
近畿大学医学部ゲノム生物学教室 西尾和人
帝京大学ちば総合医療センター 納谷幸男
国保直営総合病院 君津中央病院 仲村和芳
千葉市立青葉病院 松本精宏

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

千葉大学医学部附属病院泌尿器科講師 坂本 信一
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1
電話:043-222-7171 内線 5343(泌尿器科学教室)

研究責任者:

千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学 坂本信一

研究代表者:

千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学 市川智彦